

公益財団法人

JPLA

キリストの愛で隣人に仕える

2025 年度年間報告書

主題聖句

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書 25 章 35～36、40 節)

目次

理事長あいさつ・事務局長あいさつ	…	1
JELA とは～JELA の使命と歴史	…	2
沿革	…	3
JELA の実施事業紹介	…	4
2025年度のスポットライト		5
～奉仕者育成事業・学校教育助成	…	6
2025年度 事業報告	…	14
2025年度 会計報告	…	22
2026年度 予算	…	23
JELA サポーターのご案内	…	24
団体概要	…	25

理事長あいさつ（古屋 四朗）

JELA の 2025 年度報告書をお届けいたします。

公益財団法人の運営においては、ミッションステートメントに表された目的の実現に向けて絶えずその活動の質を高めていくことと、公益法人にふさわしい組織運営・財務運営の質を高めていくことの両方が求められます。

難民支援事業では、難民認定申請中の方々に安全な住居を提供するとともに、母国でできなかった学びに挑戦できるよう奨学金を提供しました。国を出た事情も、母国も言語も宗教も違う人々を、キリストの愛をもって差別なく迎えてお仕えることができました。また特筆すべきことに、1989年に始めた「ルーテル難民協力懇談会」がついに 100 回に達しました。これは、難民に関わる官民諸団体が現場レベルで情報を交換できる貴重な場として続けてきました。

世界の子ども支援事業では、インドとカンボジアの現地 NGO との協力で活動していますが、特にカンボジアでは日本政府の開発援助による小学校建設や、パナソニック・ホールディングス株式会社様によるソーラーランタン寄付の仲介など、外部の力も活用することができました。

奉仕者育成事業では、ふたつのワークキャンプで若い人々がキリストの愛による奉仕を学びました。特に、遺贈による寄付金で設定した「アガペー基金」の果実で、児童養護施設の青少年も招待することができました。ディアコニア奨学金は、奉仕者になろうとする志を応援するものですが、大変に応募者が増えてきました。学校教育助成金は、他者に仕える生き方を育てたいという学校現場の創意ある企画が出てきています。

私どもの活動は、100 年以上前のアメリカ福音ルーテル教会の方々から、いま継続的な寄付をくださっている JELA サポーターの皆さま、教会・学校・企業の皆さままで、実に多くの方々のご支援で成り立っています。過去から引き継いだ資産を大切に育てるだけでなく、寄付金も増えてきました。皆様からのご支援に応えるように、「キリストの愛をもって仕える」事業運営の水準を上げて行かねばと、改めて身を引き締めております。

今後も、JELA が本当に存在価値のある公益団体として成長するように、皆様のご支援と、活動への参画を、心からお願い申し上げます。



事務局長あいさつ（ベア 薫）

今年もこのように年間報告書をお届けできますことを感謝いたします。しばしば、周囲の方から、「JELA の活動は本当に幅広い」という感嘆のお言葉をいただきます。それもそのはず、JELA は教会との歩みの中で、神の愛と信仰に突き動かされ、「目の前の誰かのために何かできないか」と行動する誰かと共に成長してきたからです。その時の「目の前」がブラジルであったり、インドであったりするのは、JELA ならではだと思います。

JELA は、創設者である宣教師たちの思いを DNA のように受け継ぎながら、広く世界に飛び出し「目の前」の人々に向き合う団体です。公益目的支援事業に携わりながら、私たち自身が教えられ、育てられ、より仕える者へと変えられていっていることを感じます。

ぜひ、今年の年間報告書にお目通しいたさながら、来年の年間報告書も楽しみにお待ちください。JELA サポーターには機関紙 JELA NEWS のほかに年 4 回発行の「JELA Latest News」もお送りしています。引き続き JELA を応援いただけますと大変幸いです。

JELA とは

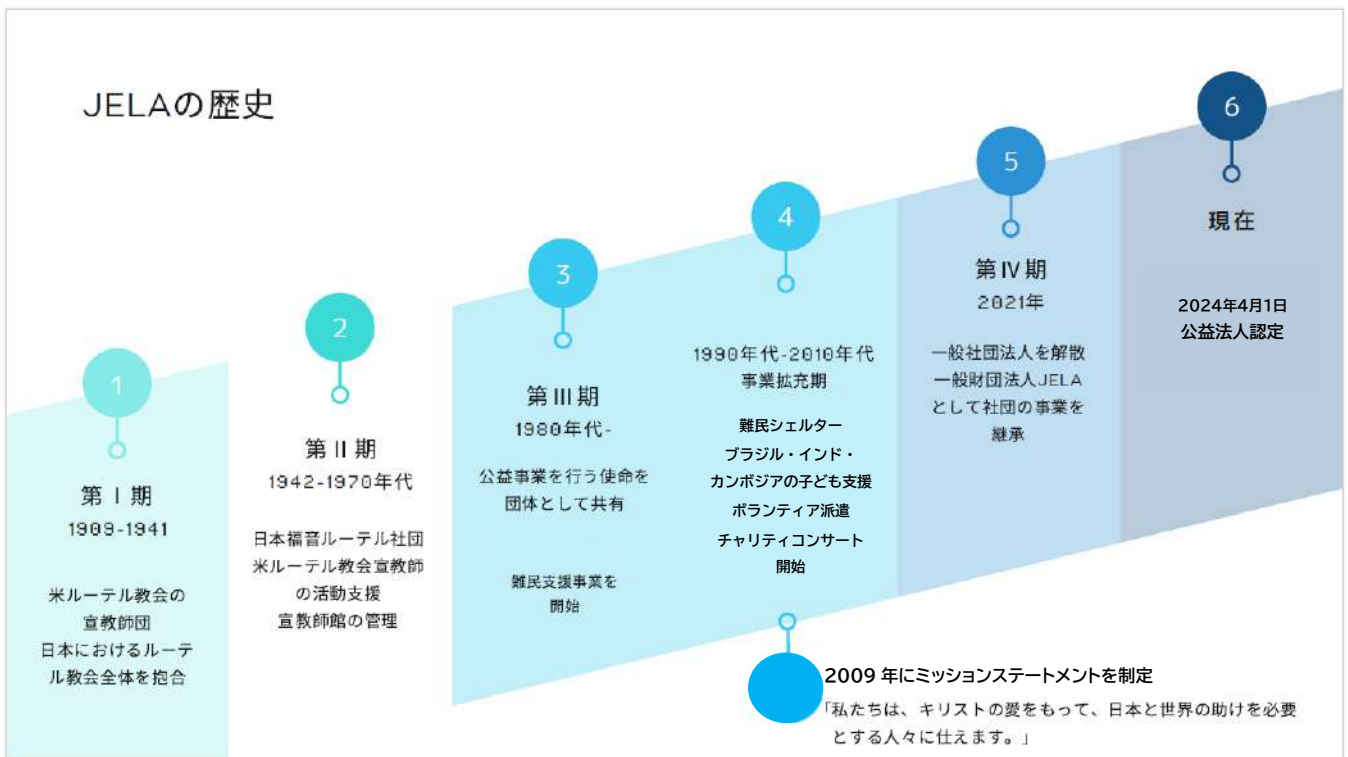
～JELA の使命と活動～

公益財団法人 JELA は、1909 年(明治 42 年)にアメリカ福音ルーテル教会の宣教師たちによって設立された宣教師社団を前身とする財団法人です。JELA は、主題聖句マタイによる福音書 25 章 35～36、40 節のごとく、「キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕える」働きをすることを使命としています。

東京都渋谷区恵比寿の JELA 社屋「JELA ミッションセンター」の 1 階ホールには、JELA の主題聖句マタイによる福音書 25 章 35～36、40 節を雄弁に語るステンドグラスがあります。聖書には、人々の愛が冷め、愛の実践に非常に大きな犠牲を伴うような時代が来ることが記されています。そのような時でさえもこの聖句に従うことのできる霊的敏感性と瞬発力をもつ社会の奉仕者を世に輩出することが JELA の使命であり、団体の創始者である宣教師から脈々と受け継いできた財産です。



JELA の歴史

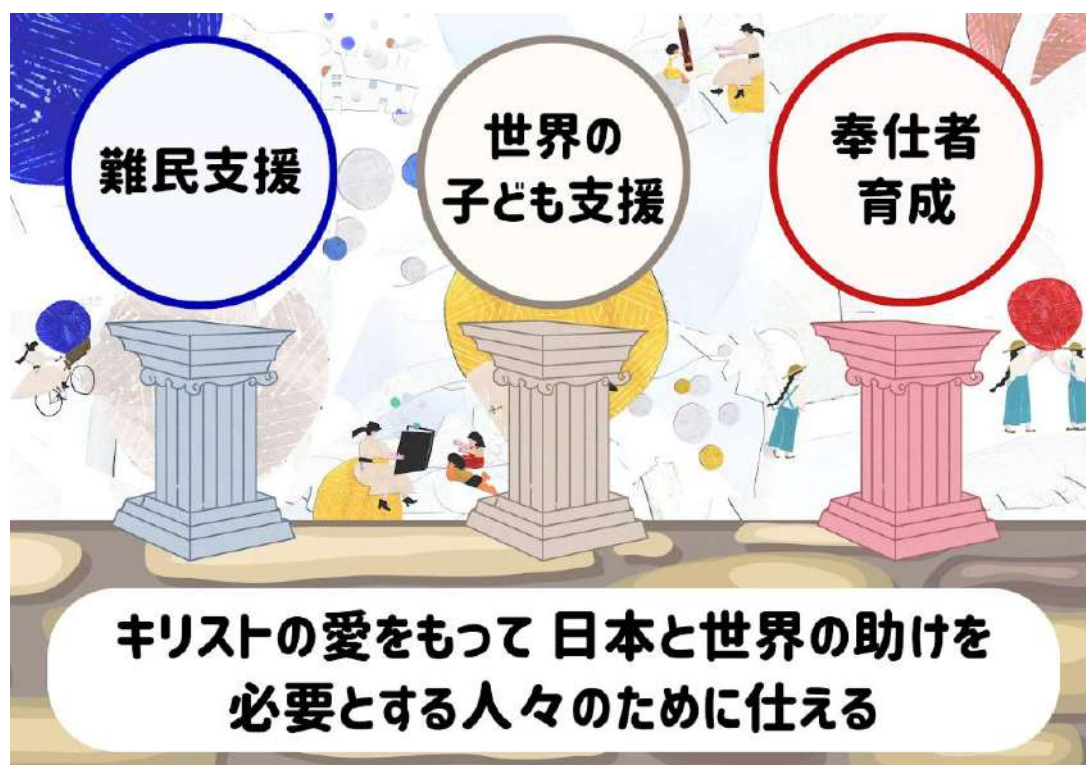


沿革

1893年	アメリカ南部一致福音ルーテル教会の宣教師が来日し、佐賀で伝道を開始 (以降、アメリカの教会では日本の伝道のために多額の献金が捧げられた)
1909年	「在日本アメリカ合衆国南部福音ルーテル教会一致(ユナイテッド)シノッド宣教師社団」として、内務省認可のもと 社団法人を設立
1919年	アメリカでの教会合同に伴って「在日本北米合衆国一致ルーテル教会宣教師社団」と名称変更
1941年	敵国財産没収など戦時の危機を防ぐため日本福音ルーテル社団へ名称変更 (戦時下の宣教師帰国、教会の全体主義体制への分離・統合)
1946年	アメリカ・ルーテル教会宣教師が戻り始め、日本福音ルーテル社団はアメリカからの支援の受け皿と宣教師館の管理団体として活動を再開
1984年	外務省の要請で 個別難民支援(経済支援)開始
1991年	民間初となる難民シェルター「JELA ハウス1」の運営開始
1999年	世界の子ども支援事業として、 ブラジルの子ども支援開始
2001年	国際青年交流奨学金 開始 (2021年にJELA ディアコニア奨学金と名称変更) アメリカ・ワークキャンプ 開始
2004年	「世界の子ども支援チャリティコンサート」開始
2005年	インド・ワークキャンプ 開始
2006年	リラ・プレカリア研修講座 開始
2007年	カンボジア・ワークキャンプ 開始 世界の子ども支援事業としてカンボジアの子ども支援開始
2009年	世界の子ども支援事業として、インドの子ども支援開始 ミッションステートメント制定
2011年	難民シェルター「JELA ハウス2」の運営開始
2013年	公益法人制度改革を受け、一般社団法人に移行 日本エキュメニカル協会から「日本エキュメニカル功労」顕彰 パナソニックのCSR事業と共同で支援地域へのソーラーランタン配布開始
2020年	UNHCRと共同で「難民専門学校教育プログラム(RVEP)」運営開始
2021年	一般財団法人JELAを設立し、同年一般社団法人日本福音ルーテル社団を吸収合併 外務省「草の根・人間の安全保障無償資金協力」でカンボジアの農村に浄水・給水施設を建設 難民支援奨学金「フィロクセニア」運営開始 学校教育助成事業 開始
2024年	4月1日公益認定、「公益財団法人JELA」として再始動
2025年	税額控除証明書 取得

JELA の実施事業紹介

JELA の現在の活動は次の3つの事業を柱としています



難民支援 事業

JELA の公益事業の中で最も歴史の古いプログラムです。今日のように「難民」という言葉がまだ一般のニュースであまり取り上げられなかった 1984 年に JELA の難民支援が始まりました。世界各地から日本に難民としてやって来た人々のためのシェルター(住居)の無償提供、学業の継続を望む人々への給付型奨学金を通して、日本で新たな生活に踏み出すための定住支援をしています。

世界の子ども支援 事業

インドとカンボジアにおける子どもの教育環境の向上のために、海外パートナーである現地 NGO とともに活動しています。海外パートナーは、ルーテル系の国際団体を母体として誕生した団体やキリスト教を背景に設立された団体です。「キリストの愛を实践する」という共通のミッションを持って、貧困国・地域の子どもの支援活動にあたっています。

奉仕者育成 事業

「キリストの愛をもって隣人に仕える」という JELA のミッションに共感し、人と社会に仕える人材を育成するために、給付型奨学金、ワークキャンプ、学校教育助成金、病床の方への奉仕など、さまざまな機会を提供しています。JELA の事業に貢献するだけでなく、広く世界に進出し、人と社会に仕える人材を輩出することを願う、次世代育成のための重要な事業です。

2025年度のスポットライト ～ 奉仕者育成事業・学校教育助成

キリストの愛を体現する奉仕者を育てる使命

当財団の使命は、「キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕える」ことです。その理念は、当財団の三本柱の事業(世界の子ども支援事業、難民支援事業、奉仕者育成事業)すべてを貫くものですが、特に、奉仕者育成事業は、社会と人々に仕える「奉仕者の心」を育て応援する事業として、この価値が次世代や他分野へ拡大することを期待する事業です。

奉仕者育成事業には、個人の学業を支援する支給型奨学金である JELA ディアコニア奨学金や、海外でのボランティア活動を通して奉仕者として成長することを支援するボランティア派遣事業をはじめとする、4つの事業があります。

今回は、そこから、JELA 学校教育助成事業にスポットライトを当て、事業の概要と助成校についてご紹介いたします。



JELA 学校教育助成金は、当財団の前身となる、一般財団法人日本福音ルーテル財団の主幹事業として、2021年に産声をあげた事業です。

その数年前まで、当財団は、一般社団法人として長年に渡り、アメリカから来日して日本の中学・高等学校に英語教師として赴任する宣教師の活動を支援することで、日本の学校教育に寄与することを目指してきました。その後の組織変更などによって宣教師支援事業を閉じる方向へ舵を取りましたが、学校教育を通して世に与えられる影響に対する当財団の期待は大きく、別の形で学校教育を助成する方法が話し合われました。

その結果、国内外の教育機関が創意工夫をもって奉仕者を育成することを助成する事業として2021年に正式に開始されたのが学校教育助成事業です。

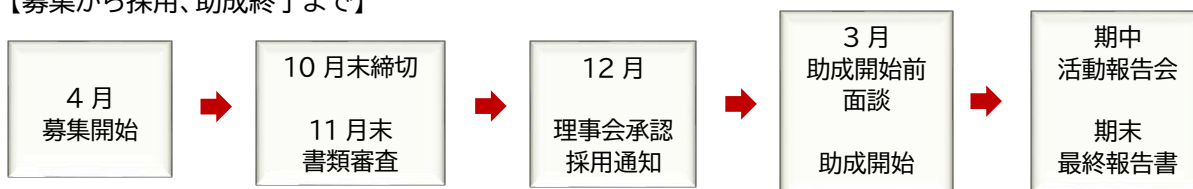
採用の基準は、「キリストの愛をもって人々に仕える」という当財団の使命との親和性、計画の公益性、内容の計画性や独創性、計画の発展性などの項目です。採用の公平性を期すために、外部選考員が全選考員の定数の半分以上を占めるように設定し、採用の基準によって数値化された採用・不採用理由をもとに選考員の注意深い協議によって助成校が決定されます。採用校には、年間100万円を上限として、申請に応じて最長3年間連続の助成が可能です。

JELA 学校助成事業の年表

(青字は当年度新規)

2021年	法人移行期に設立した一般財団法人日本福音ルーテル財団の主幹事業として創設
2022年	外部選考委員を設置し、公正な選考体制を整備
2023年	3校を助成 <ul style="list-style-type: none"> 大阪キリスト教短期大学 (プノンペンは無償保育園の新設・持続可能な運営のための基盤整備) 九州ルーテル学院大学 (障がい学生を応援する学生の活動[サポーターSHIP-S]) 松蔭女子学院 松蔭高等学校 (環境問題の啓発活動[Blue Earth Project])
2024年	5校を助成 <ul style="list-style-type: none"> 九州ルーテル学院大学(3月満了) 大阪キリスト教短期大学 松蔭女子学院 松蔭高等学校 尚絅学院大学 (障がい者を包摂するスポーツイベントの開催/七夕飾り製作を通じた特別支援学校児童との交流) 沖縄三育中学校 (サーバントリーダー養成プロジェクト)
2025年	6校を助成 <ul style="list-style-type: none"> 沖縄三育中学校(3月満了) 大阪キリスト教短期大学 松蔭女子学院 松蔭高等学校 尚絅学院大学 コイノニア教育センター (ケニアの小中学校の多目的ホール建設) 聖学院高等学校 (聖書カバー等の製作・販売による、社会・人権問題に関する啓発活動) 2026年度助成校として3校を採用 <ul style="list-style-type: none"> コイノニア教育センター(再採用) 星の杜中学高等学校 (フィリピンに関する学習プログラム実施のための教員研修) 九州ルーテル学院インターナショナル小学部 (国際バカロレア取得プロセスの構築)

【募集から採用、助成終了まで】



教育の現場からの多種多様なアイディアは、当財団にとっても大きな刺激となっています。ここでは、2025年度に助成した6校(期中終了校を含む)から寄せられた報告書を通して、各校が進める奉仕者育成プログラムをご紹介します。

本校はキリスト教全寮制中学校(共学)です。その使命は「神に仕え、人に奉仕する人物」を育成することです。この使命をはたすべく日々の教育活動を実践していますが、2024年度、公益財団法人 JELA の学校教育助成事業の助成金を受け、新たな教育プログラムをつくることができました。ここに助成をいただきました感謝を込め、活動のご報告をさせていただきます。

聖書の教えを土台としたサーバントリーダー養成プログラム

本校では「神に仕え、人に奉仕する人物」を一般化して「聖書の教えを土台としたサーバントリーダー」とし、その育成に取り組んでいます。育成のための教育活動として、伝統的に実践している人物をかたちづくる4つの特色教育と主体性を育む3つの特長的な活動があります。新教育プログラムの開発にあたり、これらの教育活動を横断的につないだ「パッケージプログラム」を作成することにしました。以下、概要をご説明いたします。

プログラム構成

本プログラムにおいてサーバントリーダーとして認定されるためには3年間、各コースのプログラムに取り組み、修了認定に合格する必要があります。

- ① コース制の導入:5つの基本マスターコースと3つの専門マスターコースを設ける
- ② 学習内容:サーバントリーダーに求められるの育成。
- ③ コース修了要件:各コースに設けられている課題に取り組み要件を満たす。
- ④ コース修了認定:各コース修了時に認定バッジを授与する。
- ⑤ サーバントリーダー認定:基本コース5つを修了する。もしくは2つの基本必修項目とその他のコースから一つを選び、その基本と専門を修了する。修了者には卒業時に認定証とリーダー徽章を授与する。



高齢者福祉施設における歌の奉仕



サーバントリーダー徽章と
マスターコース修了バッジ

養成プログラムを運営する組織の構築

養成プログラムを円滑に運営するために、校内に『サーバントリーダートレーニングプログラム委員会(略称:SLTP委員会)』を運営本部として設置しました。

現在、本プログラムには1年生から3年生まで20名(自主参加)の生徒が参加しています。今回、この新しい教育プログラムを開発することができたのは一重に学校教育助成事業として採択していただいたおかげです。もし、助成をしていただかなければ開発をすることはできませんでした。JELAの皆様に本当に感謝しております。今後も貴財団の「キリストの愛をもって、助けを必要とする人びとに仕える」人物に足る生徒を育成していきたいと思っております。

カンボジアのプノンペンにある「ひろしまハウス」で学ぶ現地の児童・生徒が、家庭環境や経済的事情によって就学を断念することのないよう支援することを目的に、大阪キリスト教短期大学（OCC）支援保育園の運営を通じて、本事業を継続的に実施してきました。特に、学齢期の兄弟が安心して学習に集中できる環境を整えるため、若い兄弟姉妹を預かる保育機能を併設した点が本事業の大きな特徴です。これは、貧困世帯が抱える生活上の制約を軽減し、教育機会の不平等を是正する貧困者支援活動の一環でもあります。



2023年の開園以降、最大8名規模の少人数保育を継続し、保育・給食・生活指導を通じて、子どもたちの基本的な生活習慣や学習意欲の向上に取り組んできました。保育園に通うことで、子どもたちは自分で身の回りのことを行う習慣が身につくようになり、学習や遊びに対しても主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。また、保護者からは「安心して仕事に集中できるようになった」「家庭の収入が安定し、子どもの教育にお金を使えるようになった」といった声が寄せられており、家庭単位にとどまらず、地域全体の生活基盤の安定につながる地域開発的な効果も確認されています。

さらに、ひろしまハウスと連携した国際交流や日本文化体験、課外学習を通じて、子どもたちは多様な価値観に触れる機会を得ています。日本人学生やボランティア、スタディーツアー参加者との交流は、子どもたちの表情や行動に大きな変化をもたらし、挨拶や簡単な日本語表現に挑戦する姿も見られるようになりました。これらの活動は、子どもたちにとっての国際理解教育であると同時に、日本人学生や教育関係者にとっても、現地で学ぶ海外研修・実践的な国際教育の場として機能しています。



三年目には、子ども同士が助け合い、主体的に行動する姿が日常となり、保育園は単なる預かりの場ではなく、学びと成長を支える地域の教育拠点として定着しつつあります。また、現地スタッフへの日常的な指導や運営を通じて、保育や教育に携わる人材の育成、将来的に地域を支える指導者を育てる研修の場としての役割も徐々に果たし始めています。



学校教育助成金による継続的な支援があったからこそ、こうした段階的かつ安定した取り組みが可能となりました。単なる資金支援にとどまらず、教育を通じて子どもと家庭、そして地域全体の未来を支えるとともに、国際ボランティアや学生、教育者に対しても、実践的で意義ある学びと国際交流の機会を提供する事業へと発展しています。

今後も公益財団法人 JELA との連携を深め、現地の実情に寄り添った教育支援、貧困者支援活動、そして次世代の指導者育成につながる取り組みを継続し、子どもたちの未来の選択肢をさらに広げていきたいと考えています。本事業を通じて得られた成果を活かし、長期的な視点で共に歩みを進めていけることを期待しています。

松蔭女子学院 松蔭高等学校

谷口理 教諭 NPO 法人 Blue Earth Project 代表理事

現在の高校生は、国連が定める SDGs の達成の 2030 年には若い世代のリーダー的存在となり、政府が目標とする脱炭素社会実現の 2050 年には責任ある社会人の中核となっていく存在ですが、脱炭素や環境問題に対して決して十分な問題意識や知識があるとは言えません。また、環境解決への活動は単に地球の環境保全だけではなく、例えば地球温暖化による気候変動で飢餓や紛争や居住地の喪失等々国内外の助けを必要とする人々に仕えることにつながる行動になる。そんなことを考えて高校時代にまずは実際に一歩踏み出し、自分たちが社会や地球を作っていくという使命感を持って街中で多くの人に環境啓発活動していく。それが Blue Earth Project です。

この活動は神戸の松蔭高等学校から始まり、今では全国に広がり毎年200人以上の高校生がこの活動に参加しています。また、高校時代にこの活動をした大学生が今度は高校生をサポートし続けています。

JELA に期待することとしては、高校生にしても大学生にしても純粋な意思や行動力、あるいは発想力や発信力は大人には無い物を持っているけれど企業のように潤沢な資金があるわけではなく、そんな中、学校教育助成のようなユニークで貴重な助成金は高校生の活動を大きくサポートするものとしてこれまでも大いに助けていただき、今後もこのような助成金が未来を担う若者たちのバックアップにつながると確信しています。

下記にこの3年間、JELAの学校教育助成があればこそ実現してきた活動を紹介します。

2023年度

テーマ:ファッションロス、海洋プラスチックゴミ

啓発イベントの場所:イオンモール神戸南、東遊園地、阪急西宮ガーデンズ、MBS 毎日放送本社社屋、三宮センター街1丁目

活動内容:エコ啓発ステージ(劇)、古着ファッションショー、廃棄衣類のアップサイクルワークショップ、古着屋開催



2024年度

テーマ:気候変動とデコ活(環境省が進める「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」)・SAF(持続可能な航空燃料)の啓発、ならびに廃食用油回収

啓発イベントの場所: MBS 毎日放送本社社屋・万博記念公園・岡山コンベンションセンター・神戸空港・神戸ハーバーランド umie、阪急西宮ガーデンズ

活動内容:デコ活につながる身近なブース出展、廃食用油の回収啓発や神戸市と連携して SAF の啓発と廃食用油の回収を各メディアに伝えた。エコ啓発ステージ(劇)、廃食用油回収を飲食店舗にも協力してもらって町の人に広く呼びかけた。



2025年度

テーマ:気候変動とデコ活・SAF 啓発。海の環境問題

啓発イベントの場所:大阪関西万博・マリニピア神戸・神戸須磨シーワールド・御影クラッセ・阪急西宮ガーデンズ・MBS 毎日放送本社社屋

活動内容:全国で Blue Earth Project に参加している高校生が各高校内で SDGs に貢献できる校内キャンペーンを行い大阪関西万博内で発表した。他にも、デコ活につながる身近なブース出展、廃食用油の回収啓発・世界の海の環境問題を VR で知ってもらうブースや地元の漁網を使ったワークショップ、エコ啓発ステージ(劇)



尚絅学院大学は、「キリスト教精神に基づく教育によって、自己を深め、他者と共に生きる人間を育てる」を建学の精神として、継承してまいりました。今回の学校教育助成事業では、二つの活動にご支援いただいています。

一つ目は、「インクルーシブスポーツキャラバン」です。この活動は、障害の有無に関わらずすべての子どもが楽しめる活動の場作りを目指し、本学の他、一般社団法人 Golazo(ゴラツソ)という障害児保護者団体、ベガルタ仙台等のプロスポーツチーム、宮城県内各市町村など、産学官の連携により進めてきました。例年、宮城県内9自治体10会場で開催し、延べ1,500人の方にご参加いただいています。すでにリピーターのご家族も増えつつあり、この活動の場が、障害のある子どもたちの一つの居場所ともなっています。主な活動内容は、チアリーダーによるダンス、本学学生によるレクリエーション、プロスポーツチームによるスポーツ体験です。特に、二つ目のレクリエーションにおいて、本学の教員志望学生が活躍しています。障害の有無に関わらず参加できる活動について、毎回工夫を凝らします。実際の子どもたちを目の前に実践することは、教員を目指すうえで何より貴重な経験となります。



二つ目は、「笑顔でつなぐ SDGs 七夕飾りプロジェクト」です。宮城県内のすべての特別支援学校の子どもたちから、笑顔の写真を集め、仙台の夏の風物詩である仙台七夕まつりに出展します。案内のチラシや説明の動画は、もちろん本学の学生が担当します。集まった1,000枚以上の短冊を吹き流しに貼り付け、8月6日から8日までの三日間、仙台市内の商店街に展示します。障害のある子どもたちが一歩外に踏み出すきっかけとすること、同時に、地域の人たちにとって特別支援学校の存在を知る機会にすることを意図しています。各支援学校からは、「普段街中に出ない子が夏休みにお出かけしていた」といった声が届き、うれしく感じています。これらの活動は、地域の人たちを巻き込み、今ある社会課題の解決に挑みつつ、未来の教育や社会を担う教員養成にも資するものだと考えています。地道な活動ではございますが、JELAの皆様にご支援をいただき、本活動は着実に育ってきております。今後も我々のようなスタートアップの活動にご支援いただき、地域への波及効果を促進していただければ幸いです。改めまして、活動にご支援いただいておりますJELAの皆様にご支援いただき、感謝申し上げます。

私たちは、innore design というミャンマー支援プロジェクトを展開しています。この名称には、innovation(新しいアイデア)と re(人々の再起を支える)という二つの思いを込めました。プロジェクトの原点には、メンバーの一人がミャンマーのクーデターを経験したことがあります。その経験から、日本に住む同世代の者たちが社会問題に無関心であることに強い危機感を抱き、社会課題を他人事ではなく自分ごととして捉え、隣人愛を実践できる人の輪を広げたいという思いで活動を始めました。

現在、私たちはミャンマーの伝統的な織物を使用した聖書カバーや聖書バッグを制作・販売し、売上から経費を除いた利益の半分を現地支援に還元する仕組みを整えています。学校では毎朝礼拝があり、生徒一人ひとりが聖書を手に入れています。その聖書を開くたびにミャンマーの現状や社会問題に思いを寄せることができ、当事者意識を育む機会になると考えています。また、現地で製作を依頼することで雇用を生み、困難な状況にある女性たちの自立支援にもつながっています。こうした循環型の支援モデルを自分たちでデザインし「継続すること」を目標に活動しています。

一方で、ミャンマーでは 2025 年 3 月に大地震が発生し、さらに国軍による長期的な弾圧やクーデターの影響で不安定な状況が続いています。キリスト教地域の教会が破壊されるなど、人々の生活や心の支えとなる場所まで奪われている現状があります。私たち自身も、高校生であるために直接支援や現地訪問が難しいことや、現地 NPO が販売チャネルを確保しにくいという課題、また製品が本のサイズに合わないといった品質面の問題など、さまざまな壁に直面してきました。さらに、大地震により織物の産地ザガインが甚大な被害を受け、生産や復興への影響も深刻なものとなっています。

このプロジェクトを通して、私たちは支援とは一方的なものではなく、自分たち自身が学び、成長する機会であると実感しました。商品の準備や企画には多くの時間と労力が必要で、根気のいる作業の積み重ねにこそ価値があることも学びました。聖書カバーや聖書バッグを購入くださった方々から好評をいただいています。

このたびは私たちの活動を支援いただき、ありがとうございました。これからも持続可能で学びのある取り組みを続けていきたいと願っています。



2000 年の 12 月、ナイロビ郊外のスラムから、悪臭を放つ汚い身なりの十数名の子供たちが、市橋隆雄・さら宣教師夫妻が幼稚園の一室で行っていたクリスマス礼拝にやってきました。この”クリスマスプレゼント“こそ、2003 年のコイノニア教育センターの始まりでした。市橋宣教師夫妻は、キリスト教教育を通して、このスラムの子どもたちが人生の支点を見出し、社会に貢献できることを喜びとするリーダーとなることを祈りつつ、極貧生活で自分の価値を見いだせずにいる彼らのため、惜しみなく愛を注ぎ、「質の高い本物の教育を」提供してきました。`I still say yes to life`をモットーに。

2016 年には広い土地を求めマイマヒウに移転。今では幼稚園から高校まで 150 名を超える大家族になりました。教室も、食事を共にする場所も、力を入れている芸術やスポーツ教育の成果を披露できる場所も不足しており、多目的ホールが必要でした。支援者の皆様の尊い献金に支えられ、時に適った助けを何度も経験しながら歩んできたものの、ケニアも物価上昇、円安の打撃もあり、ホール建設には踏み出しきれずにいました。

そんな折、2025 年度 JELA 学校教育助成に祈りつつ申請。何と助成対象として選んでいただいたのです！助成金 100 万円をもとに総工費約 1000 万円のホール建設に着工。業者丸投げは高くつくため、自分たちで部品を個別に購入、中古品の活用等の工夫をし、ホール半分の屋根と柱が完成！舞台はまだ仮設で床は草が生えたままでも、皆大喜び！さらに 2 年間の助成対象としていただくことになり、完成への大きな後押しとなりました。



実は、東日本大震災時、コイノニア教育センターの子たちが、自発的に日本のために何かできないかと話し合い、彼らにとって貴重なおやつを買う 5 円 10 円を、お手伝いで得たわずかなお小遣いを、バナナを売ったお金を差し出し…そうした捧げ物を積み重ねてなんと6万円を寄付してくれたのでした。「今はそう思えないかもしれないけれど、神さまが必ずいっしょにいます。」という幼い英語の文字のカードを添えて。「この 6 万円は、スラムで生まれ、嘘や盗みでしか生き延びる術のなかった彼らが、他者のために犠牲を払って与える愛を知った、彼らの尊厳なのです。」市橋隆雄先生のこの言葉が今も忘れられません。JELA の学校教育助成金は、単に建物のためではなく、困難な自分の人生に Yes と言いながら、自らの持てる最善を他の人々のために差し出す生き方を学んでいるコイノニア教育センターの子たちに、大きなエールを送るものであると信じています。

2025年度事業報告

難民支援事業

1984年9月に個別難民救済活動の委嘱契約を外務省と結んだことにより開始した、JELA の難民支援事業。41年目となった2025年度も、来日した難民が尊厳をもって定住できること、難民認定申請中の人々が安心して将来のことを考えられるようになることを目指し、シェルター運営、奨学金支給などの支援活動を実施しました。また、1989 年以来続く「ルーテル難民協力懇談会」は当年度中に開催 100 回目を記録し、政府機関、民間団体の連携の必要性を再確認することとなりました。

シェルター運営

1989年と2011年にそれぞれ取得した都内2か所(板橋・江戸川)の難民のための一時滞在シェルターを継続して運営し、年間で合計55名(うち17名は乳児・未就学児)の入居を受け入れました。アジア教育福祉財団難民事業本部(RHQ)、日本国際社会事業団(ISSJ)、難民支援協会(JAR)、など国内の難民支援団体からの要請を受け、ケース概要の確認、面談などを経て入居の可否を判断しますが、スピードも重視し、通常は面談当日の入居に対応しています。入居者に対しては、ゴミ出しルールや生活騒音の指導を根気よく行う一方、信頼関係を築き、日本社会にも馴染めるよう、難民、職員、支援者の交流の機会を増やす工夫に努めています。入居者にはボランティア教師や日本企業のCSRの協力による日本語レッスンも提供しました。



板橋 JELA ハウス(全6部屋)



江戸川 JELA ハウス(全11部屋)



日本企業 CSR による日本語レッスン

2025年度 利用者数

	利用者数	内子ども
板橋	12	4
江戸川	43	13
計	55	17

2025年度 利用者数(国別)

国名	利用者数
コンゴ民主共和国	11
エチオピア	7
シリア	6
カメルーン、コンゴ共和国、インドネシア	各4
チュニジア、イエメン、ナイジェリア	各3
ギニア、南アフリカ	各2
イラン、ウガンダ、ガーナ、ガボン、ロシア、マレーシア	各1
計	55

具体的な支援内容

- ◆ シェルターの無償提供 (水道光熱費・通信費を含む)
- ◆ 退去後の経済的自立のための節約指導
- ◆ 退去時清掃指導
- ◆ クリスマス会
- ◆ ボランティア教師による日本語レッスン
- ◆ 支援者から寄付を受けた食品・衣類の配布

難民奨学金

来日後、就職のための専門教育を望む難民認定者への支援として、JELA には2つの難民奨学金があります。国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所、公益財団法人ウェスレー財団とともに運営する定住難民の専門学校進学支援奨学金 (RVEP, Refugee Vocational Education Programme) と、日本での進学を望む難民認定申請中の者への支援として JELA 独自に運営する難民奨学金「フィロクセニア奨学金」は、ともに日本に暮らす難民に将来への希望を与える支援となっています。

◆RVEP(認定難民を対象、10名)

出身国	進学先	給付額
ミャンマー	東京調理製菓専門学校	3月修了
ウクライナ	日本電子専門学校	1,148,600 円
シリア	日本電子専門学校	1,053,000 円
シリア	日本電子専門学校	1,200,000 円
ミャンマー	マリルイズ美容専門学校	1,200,000 円
ウクライナ	愛心国際ビジネスカレッジ	642,500 円
ミャンマー	京葉介護福祉専門学校	703,300 円
ウクライナ	東京テクニカカレッジ	883,300 円
シリア	東北電子専門学校	741,000 円
シリア	東北電子専門学校	788,000 円
		8,359,700 円



難民奨学生の集い

◆フィロクセニア奨学金(難民認定申請者も対象、8名)

出身国	進学先	給付額
シリア	足利大学	550,000 円
ミャンマー	日本体育大学	1,200,000 円
ミャンマー	医療創生大学	1,200,000 円
ミャンマー	順天堂大学大学院	550,000 円
ウクライナ	早稲田大学大学院	992,000 円
ウクライナ	中央大学大学院	680,000 円
ミャンマー	立教大学	1,200,000 円
ロシア	テンプル大学	1,200,000 円
		7,572,000 円



職員とのオンライン定期面談

2025年3月1日には「難民奨学生のつどい」を開催して、新規奨学生に奨学生認定証を授与し、在学中の奨学生とも交流する場を持ちました。

各奨学生と、年2回ほど定期面談をもち(対面またはオンライン)、学業や生活面での心配事がないか、出席率や成績に問題がないかを確認しました。

2025年9月及び10月に開催された外部選考員を含む厳正な選考会の結果、次年度は新規7名(RVEP 5名、フィロクセニア 2名)に奨学金の給付を決定しました。

【難民支援事業で2025年度に新しく取り組んだプロジェクト】

- ・ 三菱UFJ信託銀行のCSRとしてシェルター入居者に日本語学習会を開催。
- ・ 6月20日、世界難民の日オンラインセミナー「シリアのいまとこれから～女性の視点から」の開催。また、JELA ミッションセンターを10日間青色電飾で照明し、UNHCRの「ブルーライトアップ」キャンペーンに賛同。
- ・ 1989年以来続くルーテル難民協力懇談会開催第100回目を記録。

世界の子ども支援事業

JELA の世界の子ども支援事業は、子どもたちの教育に重点を置いた支援で、現地のニーズに合致した支援となるために、インド、カンボジアのパートナー団体と協働して行っています。子どもたちが未来を切り拓く力と希望を持つ助けとなることを目指し、インドにおいてはスラム街の女兒にシェルターと教育の機会を提供し、カンボジアにおいては幼児教育機関が不足する農村地域にプレスクールを建設しました。

日本政府と現地 NGO を繋げることにより、JELA 単独では成しえない、より大きな規模のプロジェクトを可能にするため、役員・職員がカンボジアの現地パートナー団体とともに在カンボジア日本大使館を定期的に訪問し、カンボジアの子どもの教育・生活環境の改善を目的とした新プロジェクトの提案、プロジェクト候補地の視察なども行いました。国内企業の CSR 事業との連携により、ソーラーランタンの配布など子どもをとりまく生活環境を改善する活動も継続して行いました。



インド

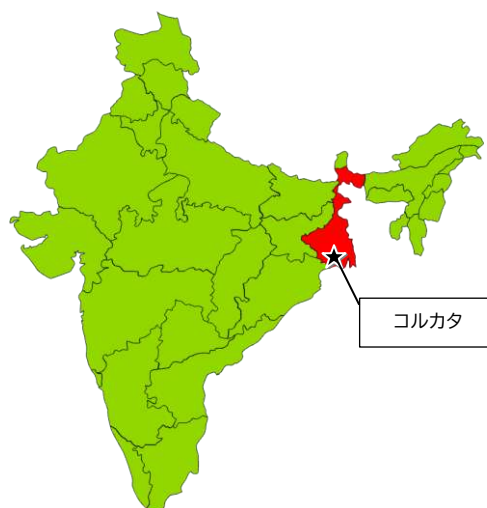
当財団の現地提携団体 Lutheran World Service India Trust (=LWSIT)が運営する施設 Child Care Institute(CCI)を通して、JELA は2009年から西ベンガル州コルカタ市のスラム街やその近隣に居住する脆弱な女兒たち(6-15 歳)の教育・生活支援を行って



ます。CCI では随時 20 名ほどの女兒が生活し、教育を受けていますが、2025年度は JELA からの分担金5,000 USD で、8 名を 1 年間支援することが出来ました。CCI は人身売買や早婚の慣習、その他のあらゆる危険な環境にいる女兒のシェルターとして機能するだけでなく、健康管理、勉学・護身術を指導し、女兒の人権に関する価値観を健全に育てることに貢献しています。

具体的な支援内容

- ◆ 女兒の安全が守られる寄宿施設の提供
- ◆ 1日 3 食の栄養価の高い食事
- ◆ 定期健康診断
- ◆ ケアテイクナーによる日常的な生活指導
- ◆ 英・数・国だけでなく、家庭科、体育、美術、音楽などを含む中等教育
- ◆ 退去後の奨学金なども検討開始



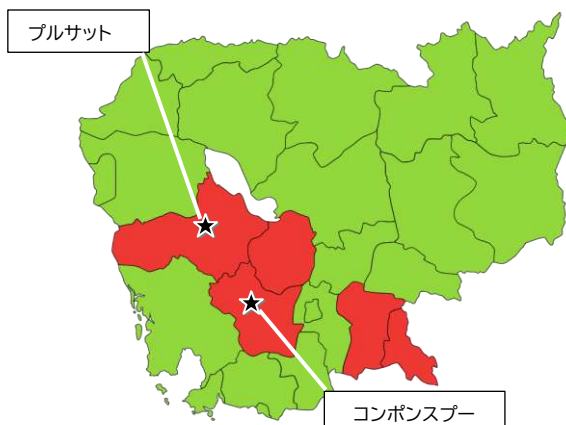
カンボジア

当財団の現地提携団体 Lutheran Hope Cambodia Organization (=LHCO)とともに、JELA は2007年からほぼ毎年1棟ずつカンボジアの農村地域にプレスクールを建設してきました。2025 年度は、14棟目(コンボンスプー州ダウンチョン村)と、15 棟目(プルサット州クルトウトウン村)のプレスクールを建設し、それぞれ約 85 名、数百名の子どもたちの受け入れが可能となりました。両地域では、長期に渡ってプレスクールの建設が望まれてきました。JELA からの分担金 8,930USD によって、プレスクールとともに敷地内にトイレも建設することが出来ました。トイレ・手洗い場設備は、児童の早期からの公衆衛生教育を可能にし、衛生環境に起因する病気や死亡を未然に防ぐことにも貢献します。



コンボンスプー州のプレスクール

また、2023 年来、当財団が LHCO とともに現地大使館、コミュニティなどと折衝を行ってきた外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」(約 1,300 万円)による小学校建設が、2025 年 10 月、プルサット州クルトウトウン村に完成し、数百名の子どもが初等教育を受けられることとなりました。



「草の根」によって建設された小学校

JELA のプレスクールが建設されている地域
★印は 2025 年にプレスクールが建設された場所

【世界の子ども支援事業で2025年度に新しく取り組んだプロジェクト】

- ・ LHCO が外務省の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によってプルサット州における小学校建設が完了。JELA は、LHCO や現地のコミュニティと協議、LHCO の申請書作成や在カンボジア日本大使館との折衝などの貢献。
- ・ 9 月に出展したグローバルフェスタで、カンボジアの新しい小学校の子どもたちに寄贈する絵本を選ぶ投票イベント、「世界の子どもたちに紹介したい日本の絵本」を開催。

奉仕者育成事業

1909年にJELAを設立したアメリカのルーテル教会の宣教師たちの目的は、日本に聖書の福音を伝えること、社会と人に仕える「奉仕者」を日本の地で育成することでした。JELAの奉仕者育成事業は、そのDNAを受け継いで、日本と世界の平和のために貢献する人材を育成することを目的とする事業です。2025年度も、JELAは、奉仕者育成事業として、JELAディアコニア奨学金、ボランティア派遣、学校教育助成、リラ・プレカリアの4つのプロジェクトを行いました。

JELAディアコニア奨学金

社会貢献、国際貢献、キリスト者としての成長のいずれかを目標として国内外の教育機関等で学ぶ人々を支援する、一人年間120万円を上限とする返済不要の給付型奨学金です。2000年の事業開始以来、130名以上の奨学生を支援してきました。2025年度は右表の13名を支援しました。11月にJELAディアコニア奨学生の集いを開催し、奨学生が勉学の進捗や将来の目標などのスピーチを行いました。こうした集いや年2回の定期面談を通して、奨学生の成長や高い志しに触れることが出来ることは、JELA事務局にとっても大きな励みになっています。2025年度の選考によって、次年度は新規3名の学生に奨学金を支給することを決定しました。

進学先	給付額
国際基督教大学	3月修了
東京国際大学	3月修了
筑波大学大学院	535,800円
東京基督教大学	1,001,100円
亜細亜大学	753,422円
三育学院大学	1,200,000円
Durham University	799,917円
Trinity Evangelical Divinity School	1,199,872円
聖路加国際大学大学院	500,000円
ルーテル学院大学	880,000円
東北学院大学	483,500円
Covenant Theological Seminary	890,000円
アジア学院	1,200,000円
9,443,611円	

ボランティア派遣

2001年以来、JELAは世界各地にワークキャンプボランティアを派遣してきました。2025年は、カンボジア・ワークキャンプ、アメリカ・ワークキャンプを実施しました。

【カンボジア・ワークキャンプ】

主要派遣先	カンボジア(エボ-ルゲイレッジプログラム)
期間	2025年2月12日~22日(11日間)
参加人数	大学1年生~4年生の7名
内容	現地パートナー団体LHCOが企画するボランティアプログラム(農作業、建物修繕)に参加する他、カンボジアの歴史・文化を身近に学ぶスタディツアーも実施し、参加した大学生が社会的視野を広げる機会の旅となりました。



👉 参加者のレポートはこちらから

【アメリカ・ワークキャンプ】

主要派遣先	アメリカ(ペンシルヴァニア州・スクラントン市)
期間	2025年7月18日～29日(12日間)
参加人数	13歳から20歳の若者16名
内容	現地のアメリカ人中高生とともに、低所得世帯の家屋修繕を行うとともに、参加者の人格の成長、信仰の成長を目的としてキャンプ主催団体による礼拝・集会に出席しました。隣接するメリーランド州でのホームステイも経験し、神様について、愛のある備えがあることについて多くを学ぶことができました。



👉 参加者のレポートはこちらから



学校教育助成

JELA のミッションステートメント(「キリストの愛をもって日本と世界の助けを必要とする人々に仕える」)の観点から、国内外の教育機関が創意工夫をもって社会への奉仕者を育成することを助成するプログラムです。年間 1,000,000 円を上限として、申請に応じて最長 3 年間まで連続して助成し、新規教育プログラムの立ち上げなどに貢献しています。2024 年度は以下の7校を助成しました。2025年度の選考により、次年度は新規3校を助成することを決定しました。教育の現場からの多種多様なアイデアは、JELA にとっても大きな刺激となっています。


助成校	助成プログラム	助成額
九州ルーテル学院大学	障害を持つ学生のための学習支援	3月終了
沖縄三育中学校	サーバントリーダーシップ教育の推進	3月終了
大阪キリスト教短期大学	カンボジアの無償保育園運営	1,000,000 円
松蔭女子学院 松蔭高等学校	環境問題啓発活動	1,000,000 円
尚絅学院大学	障害を持つ市民が参加する地域包括型のボランティア	1,000,000 円
コイノニア教育センター	ケニアにおいて貧富の差なく教育を提供する多目的ホール建設	1,000,000 円
聖学院高等学校	ミャンマーの手仕事を通して人道支援の啓発活動を行う	1,000,000 円
		5,000,000 円

リラ・プレカリア

リラ・プレカリアは、死生学的知見に基づき、死の床にある人や病に伏せる人に祈りと歌をもって寄り添う奉仕者を育成するために、2006年にJELAがキャロル・サック宣教師とともに創設した2年間の奉仕者養成講座です。2018年に講座が終了するまでの12年間、1～6期の養成講座開催によって、38名の修了生を奉仕者として世に輩出しました。修了生は、日本各地のホスピス、病院、老人ホームなどで活動を展開しています。

2025年10月には、長年アメリカで病院のチャプレンを務めた岡田圭氏を招いて、チャリティイベント『人生の最期に人は何を語り合えるのか』を開催し、聖書的死生観を基盤とした看取りのあり方に関する考察などが語られました。60人余りが集まり、講義の後の質疑応答にも積極的に参加する姿も見られました。本イベントは、当財団の世界の子ども支援事業チャリティイベントとして開催しました。



参加者のレポートは
こちらから 



緊急災害支援事業

JELAの中心事業ではありませんが、JELAは国内・海外を問わず、主に自然災害によって被災した地域に対して経済的支援を行えるよう準備しています。2025年度は、ミャンマー・タイ地震被災者支援のほか、高校生を能登半島被災地ボランティアに派遣するプログラムを助成しました。被災地支援を行う団体を助成できるよう、ホームページに申請手続きなどの情報を公開しています。

広報事業



機関紙 JELA NEWS の66～68号を各1万部発行し、JELAの事業活動の様子を支援者の皆様にお届けしました。ほか、ブログ記事93件と連携してSNSも利用し、特に募集記事等の拡散に努めました。2025年度は公益法人として税額控除証明書も取得しました。

JELAの組織図



2025年 JELA の年間活動(抜粋)

Jan	【難】 JELAハウス対応/管理人会議/委員会 【子】 インドの女兒支援/カンボジアのプレスクール建設 【奉】 JELAディアコニア奨学生面談/奨学金委員会 【広】 委員会	Jul	常務理事会 【難】 ルーテル難民協力懇談会第99回/委員会/JELAハウス対応/ 管理人会議 【奉】 アメリカ・ワークキャンプ/JELAディアコニア奨学生面談
Feb	第1回定時理事会(2月25日) 常務理事会/外部監査・内部監査/財務委員会 【難】 CSRイベント/アフガン帰国支援/奨学生面談/JELAハウス 対応/管理人会議/委員会 【子】 カンボジア・ワークキャンプ 【奉】 リラ・プレカリア修了生講座/ボランティア派遣委員会	Aug	【難】 奨学生面談/JELAハウス対応/管理人会議 【広】 JELA NEWS67号発行/委員会
Mar	臨時理事会(3月26日) 定時評議員会(3月26日) 【難】 奨学生のつどい/ルーテル難民協力懇談会第98回/江戸川生涯 学習センター講義/奨学生面談/JELAハウス対応/管理人会議 【奉】 JELAディアコニア奨学生面談/学校教育助成委員会 【広】 委員会	Sep	第3回定時理事会(9月12日) 常務理事会/財務委員会 【難】 RVEP選考/奨学生面談/JELAハウス対応/管理人会議/委員会 【子】 委員会(兼ボランティア派遣) 【奉】 JELAディアコニア奨学生面談/奨学生委員会/学校教育助成委員会 【広】 グローバルフェスタ JAPAN出展
Apr	【難】 JELAハウス対応/管理人会議 【奉】 学校教育助成報告会/JELAディアコニア奨学生面談/ 奨学金委員会 【広】 JELA NEWS66号発行/委員会	Oct	常務理事会 【難】 フィロクセニア奨学金選考/奨学生面談/JELAハウス対応/ 管理人会議 【子】 カンボジアにODAによる小学校完成 【奉】 JELAディアコニア奨学生面談/奨学金委員会 【広】 支援者イベント開催/委員会
May	第2回定時理事会(5月30日) 常務理事会/外部・内部監査/財務委員会 【難】 奨学生面談/JELAハウス対応/管理人会議 【子】 カンボジア・プレスクール完成/海外パートナー会議/委員会(兼ボラ ンティア派遣) 【奉】 JELAディアコニア奨学生面談/奨学金委員会/ボランティア 派遣委員会	Nov	常務理事会 【難】 ルーテル難民協力懇談会第100回/奨学生面談/JELAハウス対応/ 管理人会議/委員会 【奉】 JELAディアコニア奨学生選考/奨学生の集い/奨学生委員会 【子】 委員会(兼ボランティア派遣)
Jun	常務理事会 【難】 世界難民の日イベント/奨学生面談/JELAハウス対応 管理人会議/委員会 【広】 委員会	Dec	第4回定時理事会(12月12日) 税額控除に係る証明書取得 【難】 クリスマス会/JELAハウス対応/管理人会議/委員会 【奉】 学校教育助成選考会 【広】 JELA NEWS68号発行

2025年度会計報告

貸借対照表

2025年12月31日現在	
科目	金額(円)
I 資産の部	
1. 流動資産	153,846,476
2. 固定資産	5,728,441,793
(1)基本財産	3,481,000,000
(2)特定資産	648,156,664
(3)その他固定資産	1,599,285,129
資産合計	5,882,288,269
II 負債の部	
1. 流動負債	13,536,026
2. 固定負債	47,694,696
負債合計	61,230,722
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	1,409,836
2. 一般正味財産	5,819,647,711
正味財産合計	5,821,057,547
負債及び正味財産合計	5,882,288,269

正味財産増減計算書

2025年1月1日から2025年12月31日まで	
科目	金額(円)
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	69,134,650
特定資産運用益	1,411,737
世界子ども支援事業収益(ワークキャンプ参加費)	6,125,000
不動産賃貸事業収益	141,630,960
受取寄付金	4,945,482
受取負担金	4,000,000
雑収益/受取利息	429,362
経常収益計	227,677,191

(2) 経常費用	
事業費	194,455,780
管理費	34,901,670
経常費用計	229,357,450
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,680,259
評価損益等計	276,841,531
当期経常増減額	275,161,272
2. 経常外増減の部	
経常外収益計	0
経常外費用計	5,857,000
当期経常外増減額	△ 5,857,000
税引前一般正味財産増減額	269,304,272
法人税等	3,170,400
当期一般正味財産増減額	266,133,872
一般正味財産期首残高	5,553,513,839
一般正味財産期末残高	5,819,647,711
II 指定正味財産増減の部	
指定・受取寄付金	2,717,536
一般正味財産への振替額	△ 2,716,536
当期指定正味財産増減額	1,000
指定正味財産期首残高	1,408,836
指定正味財産期末残高	1,409,836
III 正味財産期末残高	5,821,057,547

独立監査法人の監査報告書抜粋

私は、公益財団法人 JELA の委嘱に基づき、公益財団法人 JELA の令和 7 年 4 月 1 日から令和 7 年 12 月 31 日までの財務諸表、すなわち、貸借対照表（貸借対照表内訳表を含む。）、正味財産増減計算書（正味財産増減計算書内訳表を含む。）、その附属明細書並びに重要な会計方針を含む財務諸表に対する注記（以下、「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び正味財産増減の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2026年2月7日

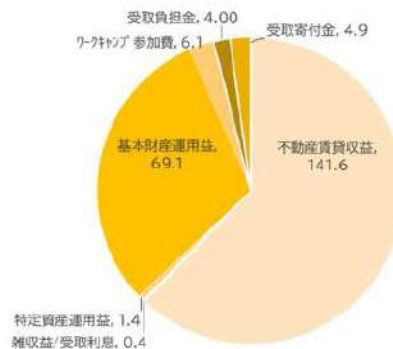
川田公認会計士事務所

東京都中央区

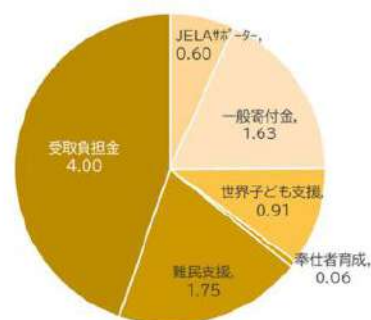
公認会計士 川田 亮



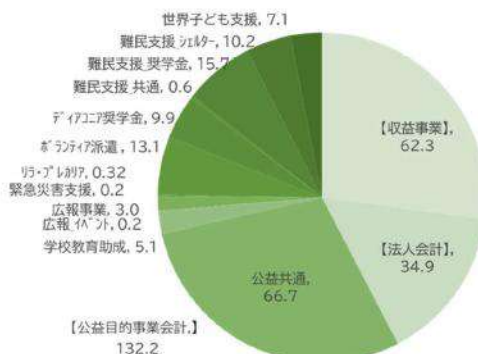
2025年12月 経常収益内訳 単位:百万円



2025年12月 受取寄付金等内訳 単位:百万円



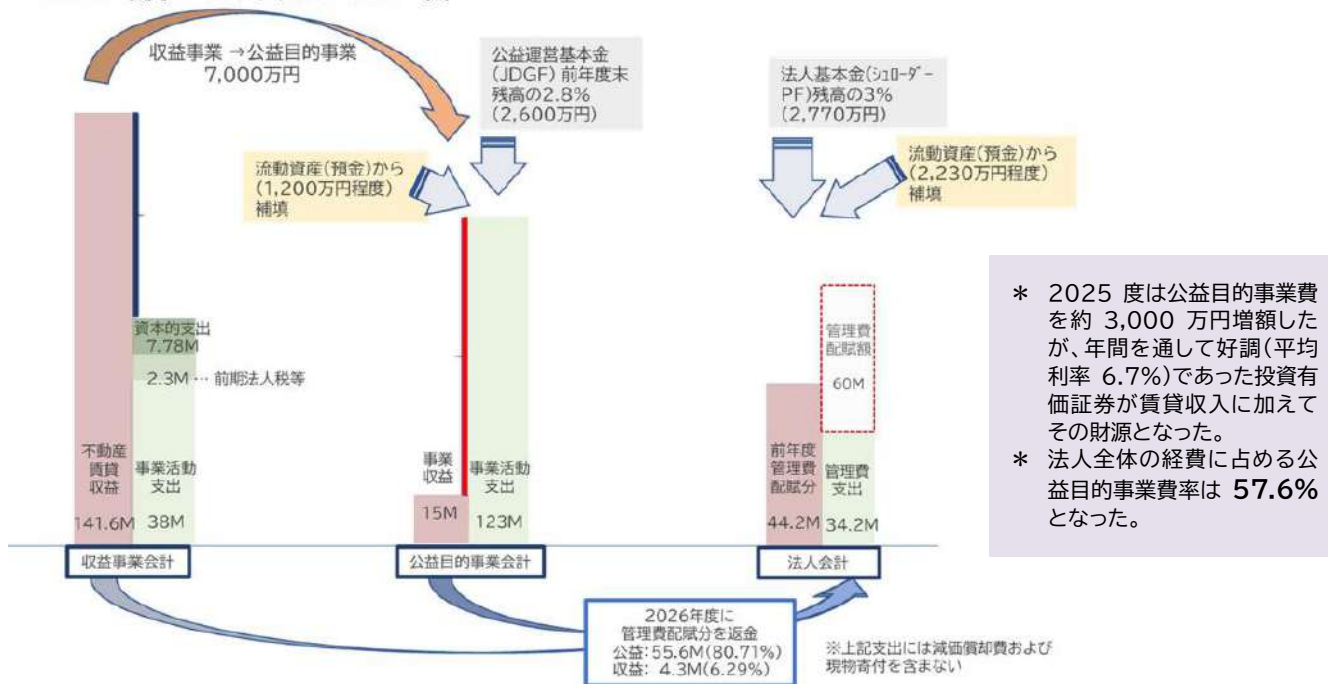
2025年12月 経常費用内訳 単位:百万円



2025年12月 公益目的事業 事業費 科目内訳 単位:百万円



2025年度 JELA キャッシュフロー図



2026年度予算

正味財産増減予算書内訳表

2026年1月1日から2026年12月31日まで
(単位:円)

科目	公益目的の事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	0	55,400,000	55,400,000
特定資産運用益	5,540,000	0	3,800	5,543,800
ワークキャンプ参加費収益	9,585,000	0	0	9,585,000
不動産賃貸事業収益	0	147,433,980	0	147,433,980
受取寄付金	9,562,000	0	0	9,562,000
受取分担金	6,150,000	0	0	6,150,000
雑収益/受取利息/為替差益	15,500	587,000	25,000	627,500
経常収益計	30,852,500	148,020,980	55,428,800	234,302,280
(2) 経常費用				
事業費	151,619,890	79,549,336	0	231,169,226
管理費	0	0	45,083,600	45,083,600
経常費用計	151,619,890	79,549,336	45,083,600	276,252,826
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 120,767,390	68,471,645	10,345,200	△ 41,950,546
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 120,767,390	68,471,645	10,345,200	△ 41,950,546
2. 経常外増減の部				
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	70,000,000	△ 80,000,000	10,000,000	0
法人会計振替額	0	0	10,000,000	10,000,000
公益目的の事業会計振替額	0	△ 80,000,000	0	△ 80,000,000
収益事業等会計振替額	70,000,000	0	0	70,000,000
税引前一般正味財産増減額	△ 50,767,390	△ 11,528,356	20,345,200	△ 41,950,546
法人税等	100	0	100	200
当期一般正味財産増減額	△ 50,767,490	△ 11,528,356	20,345,100	△ 41,950,746
一般正味財産期首残高	1,483,939,754	2,085,771,499	2,249,936,458	5,819,647,711
一般正味財産期末残高	1,433,172,264	2,074,243,144	2,270,281,558	5,777,696,966
II 指定正味財産増減の部				
指定・受取寄付金	4,032,000	0	0	4,032,000
一般正味財産への振替額	△ 5,232,000	0	0	△ 5,232,000
当期指定正味財産増減額	△ 1,200,000	0	0	△ 1,200,000
指定正味財産期首残高	1,409,836	0	0	1,409,836
指定正味財産期末残高	209,836	0	0	209,836
III 正味財産期末残高	1,433,382,100	2,074,243,144	2,270,281,558	5,777,906,802



JELA の活動は、皆様からの温かいご支援によってこそ実り豊かなものとなります。「キリストの愛をもって、日本のと世界の助けを必要する人々に仕える」という使命を継続して果たすことができるよう、どうかご寄付によって JELA をお支えください。

JELA サポーター(定期寄付)

決まった額を定期的にご支援くださる方を「JELA サポーター」と呼び、JELA の同労者としてお祈りさせて頂きつつ、JELA の活動報告等をつぶさにさせて頂いております。お選びいただける寄付の間隔・金額は次のとおりです。

年1回(50,000 円、10,000 円、5,000 円、3,000 円、2,000 円、または 1,000 円)

月1回(10,000 円、5,000 円、3,000 円、2,000 円、または 1,000 円)

JELA サポーターとしてのご寄付は、当財団の公益活動全般のために用いられます。

クレジットカードにて JELA サポーターにお申し込みくだされば、2回目以降のご寄付が自動的に決済されます。

その他ワンタイム寄付(1回かぎりの寄付)

その時かぎりのご寄付も常に歓迎いたします。公益活動全般のための寄付はもちろん、「カンボジアの子ども支援のために」のように特定の目的をご指定いただくことも可能です。

金額は 1 円単位での指定が可能です(クレジットカードの場合は 1,000 円以上)。

寄付金の送金方法

クレジットカード(VISA、Mastercard、JCB、American Express)による方法をご希望の方は、当財団ホームページ(<https://www.jela.or.jp/donate/>)からご寄付をお願い致します。その他、以下のように振込用紙や銀行振込によるご寄付も歓迎いたします。

■ 郵便振替

口座番号:00140-0-669206

加入者名:公益財団法人JELA



JELA の活動に
参加しませんか？

皆さまが JELA の働きに加わってくださることを、JELA 一同心より楽しみにしております。

団体概要

正式名称	公益財団法人 JELA
英語名	JELA Foundation
所在地	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-20-26
代表理事	古屋 四朗
設立	1909年6月21日
公益認定	2024年4月1日
事務スタッフ	常勤職員7名

■ 役員・評議員

代表理事	古屋 四朗	(学校法人草苑学園 総務・財務部長)
常務理事	杉本 洋一	(社会福祉法人キリスト教児童福祉会聖母愛児園 施設長)
	松岡 俊一郎	(日本福音ルーテル教会 教師)
理事	青木 孝士	(明治大学 研究・知財戦略機構 財務戦略研究所 客員研究員)
	浅野 直樹	(日本福音ルーテル教会 教師)
	グリハック・ロウエル	(Ph.D. 国際開発・国際ビジネス)
	徳弘 浩隆	(日本福音ルーテル教会 教師)
	深澤 理香	(特定社会保険労務士)
	渡辺 薫	(公益財団法人 JELA 事務局長)
監事	池永 清	(東京熊本県人会 理事)
	滝田 浩之	(日本福音ルーテル教会 教師)
評議員	荒川 朋子	(学校法人アジア学院 常務理事)
	後藤 由起	(日本福音ルーテル教会 教師)
	坂本 千歳	(日本福音ルーテル教会 教師)
	谷口 美樹	(熊本家庭裁判所家事調停委員・法務省委嘱人権擁護委員)
	中川 英明	(元国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) シニア・プログラムオフィサー)
	中嶋 裕一	(国際基督教大学高等学校 校長)
	藤原 佐和子	(明治学院大学 准教授)
	松木 傑	(一般社団法人わかちあいプロジェクト 代表)
	山内 恵美	(社会福祉法人ベタニヤホーム 副施設長)

■ パートナー団体・参加しているネットワーク

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所
公益財団法人 ウェスレー財団
NPO 法人なんみんフォーラム
パナソニック・ホールディングス株式会社
Lutheran Hope Cambodia Organization (カンボジア)
Lutheran World Service India Trust (インド)
Comprehensive Rural Health Project (インド)